

はじめに

2017年5月、Googleの人工知能（AI）「AlphaGo」が囲碁の世界チャンピオンに勝利しました。僅差での勝利ではあったものの、専門家たちはAlphaGoが、それぞれの石を最大限に働かせるための手を打ったと評しているそうです。何よりも、複雑なルールの囲碁で、AIが人間の思考を上回り、そして、勝利したことに、時代の進歩を感じずにはられません。映画やアニメの世界だと思っていたことが、現実の世界で起きてきているわけです。自動車業界では自動運転の技術が進歩し、スイッチ一つで駐車が可能となり、アクセルやブレーキを踏まなくてもAIが判断し、走る、止まるといったところまで進化しています。私たちの身の回りには、AIがいつの間にか入り込んできているのです。

ニューヨーク市立大学大学院センター教授のキャシー・デビッドソン氏が「子どもたちの65%は将来、今は存在していない職業に就く。」と述べられていますが、目の前の子どもたちの未来社会における働き方は間違いなく変わってくることでしょう。

これからはAIが中心の世の中となり、人間が活躍する場面が減少するのでしょうか。いえ、先日閉幕した平壤オリンピックで、日本は13個のメダルを獲得しました。その裏には、選手の努力、それを支えたコーチ等の存在があり、たくさんの感動が生まれました。これは、AIで生み出すことが難しいかもしれません。これからは、人間としての強み、「やる気を引き出す、新しい物を創造する、ケアする、人と人とを繋げる」など、人の気持ちを大切にできる人材が求められることでしょう。

このような社会の変化を踏まえ、平成29年3月には、新学習指導要領が告示されました。新学習指導要領は、予測が困難な時代を生きていく力を培うために、課題解決に向け、主体的な姿勢、そして、他者と協働することを重視した内容となっています。これらのことをふまえ、私たち教員は子どもたちに教科の本質や見方・考え方を伝え、未来社会を生きていく力を育てていかなければなりません。

平成29年度に伊丹市では、14校園が研究発表を行いました。どの研究発表も新学習指導要領の流れをふまえ、子どもたちの主体的・対話的で深い学びを実現するための授業実現に向けた研究がなされていました。

総合教育センターにおいては、管理職対象のトップリーダー研修や中堅教員対象のミドルリーダー養成研修、初任者研修や授業力向上講座等、様々な研修講座で、新学習指導要領に関連した研修を実施し、子どもに夢と誇り、感動を与えられる教職員、AIでは代わることのできない教職員の育成に努めてまいりました。今後も、研修を通して、学び続ける教職員の育成に尽力してまいります。どうぞ、一層のご支援ご協力をお願いいたします。

さて、このたび総合教育センターにおける1年間の事業の取り組みを集約し、第58報「研究集録」として発刊する運びとなりました。皆さまにおかれましては、本集録をご一読いただければ幸甚に存じます。結びにあたりまして、本集録の作成に多大なご協力をいただきました皆さまに心から感謝申し上げます。

平成30年3月

伊丹市立総合教育センター
所長 後藤 猛虎